

**「子ども太鼓をつくろう」の単元指導計画**

段階	主な学習活動	教師の働きかけ（学ぶ意識、体験活動、 集団追求の場、学習集団を中心に）	付けたい力 教科関連
つ か む  ・ ニ ユ ニ ツ ト	<b>共有課題</b> ：「子ども太鼓をつくろう」の学習について考え合おう		
	<p>これまでの「そらタイム」の学習を振り返り、その成果や成長を確かめる。</p> <p>太鼓を中心とした学習に取り組むことについての思いや願いを交流する。学習の目的や発表の場・相手などを確かめる。</p> <p>太鼓に関わる様々なビデオを観て、自分がやってみたいと思うことを見付ける。</p> <p>-----</p> <p>学習の目的や発表の場・相手を再確認する。</p> <p>各自がやってみたいと思ったことを整理して組んだチーム（テーマ）を知る。自分が追求していくチームを選び、決定する。</p> <p>チーム内でのグループ分けをする。</p> <p>チームやグループごとに、おおまかな学習計画を立てる。</p>	<p>太鼓を中心とした学習に取り組むことは、その意義や楽しさに触れながら、教師が提案する。それが子どもの意識にかなうものであるかを、子どもたちの反応を注意深く見届けたり、つぶやきを語らせたりすることによって確かめる。</p> <p>子どもたちの反応や意見を引き出す中で、次のような学習の目的や発表の場・相手を確かめ合う。</p> <p>やりとげることによって自分に対する自信を付けたり、学年の仲間を信じる心をふくらませたりする。</p> <p>参観日やコンサートで、発表を聞いてもらう。自分たちで自信・納得のある表現をつくり上げ、伝える。</p> <p>太鼓に関わる様々なビデオ（伝統的な太鼓や創作太鼓、子ども太鼓、太鼓の制作の様子）を観ることを通して、学習に対する意欲を高めると共に、自分の願いがもてるようにする。</p> <p>子どもたちが「やってみたいこと」として挙げたことをできる限り尊重して、チーム（テーマ）を設定する。そのチーム分けで、自分の興味関心が生かせるかを確かめた上で、チームを決める。</p>	<p>これまでの「総合的な学習の時間」でつかみ取った自信・態度・スキル</p> <p>自分の興味・関心をより所として、自分の課題（追求したいこと）を見付ける力</p> <p>学習の出口を見通して、学習の計画を立てる力</p>
追 い 求 め る	<b>共有課題</b> ：太鼓について、くわしく知ろう		
	<p>太鼓の創作チーム</p> <p>・自由に太鼓を叩いたり、実際に自分たちで叩くことを大切にしてビデオのまねを</p>	<p>左の欄に示した活動に取り組むことによって、どのチームも自分たちにとって必要な情報を収集する活動に取り組むようにする。</p> <p>情報を収集する活動に取り組む中で、</p>	<p>自分の活動を振り返り、新たな課題や具体的</p>

追 い 求 め  る  ・ 三 ユ ニ ツ ト	<p>したりする。</p> <p>太鼓の制作チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な材料や道具を集めたり、様々な物を叩いて音を出してみたりして、太鼓にならないかを調べる。</li> <li>・ 太鼓を作るための材料や道具、作り方としてどんな物・方法があるかについて、本やインターネットを使って調べる。</li> </ul> <p>太鼓の調査チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太鼓に関する資料をできる限り多く集める中で、自分が一番追求してみたいテーマを見つける。グループを決定する。</li> <li>・ 自分で決めたテーマについて、本やインターネット、聞き取り調査などの方法で情報を集める。</li> </ul>	<p>次の段階で自ら創作・制作したり、自分の論をまとめたりするためのレディネスを整えていく。</p> <p>創作チームと制作チームについては、相談したり、つくったりするのに適切だと思われる5人を基本として、グループを編成する。</p> <p>調査チームは、これまでに得た情報が少ないために、目的意識が十分ではない追求になってしまうことも予想される。そこで、まずは、自分が本当に追求してみたいテーマを明らかにするための情報収集活動に取り組むようにする。それが固まったところで、人数も制限せず、テーマ別ということは何よりも大切にしたいグループを作る。</p> <p>「つかむ」段階で確かめた目的・相手については、各ユニットの課題確認の場で、繰り返し押さえるようにする。活動中も、場・状況意識を高める働きかけに加え、目的・相手意識を高める働きかけを大切に、積み上げていく。創作チームのお手本や叩き方の指導者、調査チームのインタビューの相手として「美濃焼太鼓」に取り組む方や太鼓の経験者に支援していただく。</p> <p>学習プリント：「グループの取り組み」 計画カード</p>	<p>な課題を見付ける力</p> <p>自分の目的に合った情報を収集する力</p> <p>メディアの活かし方 調査の仕方 学習の計画・評価の仕方</p> <p>国語：インターネットの活用と聞き取り調査の仕方 音楽：即興表現</p>
---	--	---	---

つ  く  り  出  す	<p><b>共有課題</b>：自信がもてるオリジナルの「太鼓」をつくらう</p>		
<p>太鼓の創作チーム</p> <p>自分が見付け出した節や叩き方を交流し、組み合わせ、グループ毎の太鼓をつくる。</p> <p>楽器や音の組み合わせ、つなぎの太鼓、全体の構成なども工夫して、各グループの太鼓を組み合わせる。</p> <p>かけ声や振り付けも工夫して、通しの太鼓を完成させる。</p> <p>衣装や紹介の言葉をつくる。</p>	<p>各チームとも、一人一人の表現や工夫が必ずグループの表現や作品に位置付くようにすることを約束とし、「自分の表現・作品である。」という意識を、どの子ももてるようにする。</p> <p>教師も共にテーマや活動を追求している仲間という立場で参加することを基本とするが、次のような働きかけは確実に積み上げていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付けたい力を発揮したり、価値ある取組ぶりや成長が見られた子に対して、認め励ましの言葉をかけて、その良さを自信につなげる。</li> <li>・ 課題が具体的なものとしてとらえられていなかったり、難しすぎたりすることによって活動が停滞している</li> </ul>	<p>自分の表現や制作物、調査活動を評価し、新たな課題や具体的な課題を見付ける力</p> <p>試行錯誤しつつもよりよい表現や作品、発表を目指し</p>	

つ く り 出 す ・ 六 ユ ニ ツ ト	<p>太鼓の制作チーム 材料や道具、組み合わせ方、叩く場所などを工夫して、各グループで太鼓を作る計画を立てる。 各グループで考えた太鼓を制作する。 各グループで作った太鼓を使って、演奏してみる。 紹介の言葉や紹介の仕方を考える。</p> <p>太鼓の調査チーム 各グループ（各自）のテーマについて、さらに情報を集める。 集めた情報を分類・整理する中で、自分が伝えたいことを見つけ出す。 表現の仕方を工夫して、発表の準備を進める。 発表の練習をする。</p>	<p>ような場合は、教師が子どもと対話する中で、課題の検討・修正をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちだけで乗り越えるのが困難と思われる課題（創作チームの全体構成を考えることなど）については、子どもたちが納得して進めているかを確かめながらも、教師が指導・援助する。</li> </ul> <p>「追い求める」段階で集めた情報も活用しながら進めることを促すことで、情報を自分の表現・作品作りに活かす力を身に付けることにつなげる。</p> <p>チームによって内容や位置付け方は違うものの、聞き合い、アドバイスし合ったり、よりよい方法を共に考えたりする場を、必要に応じて設定する。</p> <p>チームを越えて情報を提供し合ったり、アドバイスし合ったりする機会も設け、仲間と共につくり上げたという意識を一層高める。</p> <p>「つかむ」段階で確かめた目的・伝える相手は、この段階でも、各ユニットの課題確認の場で、繰り返し押さえる。活動中は、その目的・伝える相手とのかかわりで、表現方法等の意識を高める働きかけを大切にしながら指導を積み上げていく。</p>	<p>て追求し続ける力 情報を自分の表現・作品作りに活かす力 情報を活かして、相手に分かりやすく伝える力 作品の作り方 表現の仕方 国語：情報活用の仕方 図工：デザインの発想・技能</p>
---	--	---	--

働きかける・三ユニット	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>共有課題</b>：学習の成果を力いっぱい出し切り、精一杯伝えよう         </div>		
<p>三つのチームが発表する方法やつなぎ方を工夫し、発表の練習をする。 発表する。 本番のビデオを観た上で、本単元での成果・成長を振り返る。自分や仲間の宝物にする。</p>	<p>発表の構成は、教師も共に考える。 発表を聞いた人の感想を聞かせてもらい、それについて児童が思ったことを返すことによって評価意識を高める。 個の頑張りや成果、成長を認め合う対話や場の設定をし、自分への自信や仲間を信じ感謝する心を深めるようにする。</p>	<p>評価し、新たな課題を見つける力 情報伝達力</p>	

「ユニット」は、1単位時間のことである。1授業45分間とは限定せず、弾力的に時間を設定することから、「ユニット」という言葉を使っている。